

東京2020大会

「野球があったからこそ乗り越えられた」支援物資で届いたグローブとともに 福島県 相馬東高校 鈴木海恵さん

2021年3月12日



一番大切にしていたグローブが流された

地震発生当時、小学校2年生だった鈴木海恵さんは小学校で終わりの会をしていました。

「立ってられないくらい揺れたので、すごく怖かったです。すぐに校庭に避難し、30分ぐらいでお母さんが迎えに来てくれました。それでも、津波がくるかもしれないということで自宅におばあちゃんを迎えに行き、急いで安全な場所に逃げました」

避難所で流れる津波の映像を見ながら、心配したのは船で漁に出ている父親のこと。3日後に再会を果たし、家族全員が無事でした。しかし自宅は流され、思い出の品や辺りの住宅も流されていました。変わり果てた自宅を見ながら一番ショックだったのは、両親に買ってもらいキャッチボールをしていた大切なグローブが流されてしまったこと。「すごく悔しかった」と胸の内を明かします。そんな中、避難所に届いたのは、新潟県から届いた支援物資のグローブでした。地元の野球少年団のコーチがそのグローブを見つけ、「一緒に野球をやろう」と届けてくれました。

「まさかグローブが届くとは思わず、嬉しかったのと同時にびっくりしました。その時はなかなか前を向けず、外に出る機会もなかった時期でしたが、野球が今できることなら頑張ってみようと（支援物資で届いたグローブに）背中を押してもらいました」



小学5年生時に「いわき学童新人大会」に出場した鈴木さん
本人提供

あっという間の10年だった

震災後の2011年4月から地元の少年団で野球を始めた鈴木さんは、試合に出られる選手になりたいと友人と練習をしたり、自宅に帰っても素振り続けるなど努力し続けました。その姿を見ていた家族との会話も次第に増え、母親は家業の漁業を支える合間をぬって試合には必ず応援に来てくれたそうです。

「野球を始めてからは、この10年あっという間でした。学校に行きながらも、本当に野球三昧でもう高校卒業かという思いです。野球をやっている中でも苦しいことがたくさんありました。でも、大好きな野球があったからこそ友達ができて、試合に出るために練習しなくてはと前を向いてこられました」

一番楽しかったという高校野球でも逆境がありました。鈴木さんが入部した相馬東高校野球部は、1年生の秋にマネージャーを含めて部員が5人に。みんなで中学校に足を運び、「東高で野球をやろう」と声をかけて回り単独校での出場を目指しました。その努力が実り、新入生は10人を超え、相馬東高校としての出場を果たすと、3年生最後の夏の県大会では、東京2020オリンピックが行われる「福島あづま球場」のグラウンドで初めて試合を行うことができました。今までプレーしてきた球場とのスケールの違いや、内野まで敷かれた芝に感動するとともにすごく緊張したそうですが、同球場での試合では2勝を挙げました。「野球は自分一人では勝てません。ヒットを打ったりするもの楽しいけれど、それ以上にみんなで声を掛け合って試合に勝ったことが、なによりも楽しかったです」



高校最後の夏の大会では福島あづま球場で2勝をあげた
本人提供

金メダルを取って元気づけてほしい

東京2020オリンピックの野球は2021年7月28日、福島あづま球場で開幕します。オリンピックのどの競技が地元で開催されても嬉しいものの、大好きな野球とソフトボールが福島に来てくれることにびっくりしたそうです。そしてこのオリンピックを機に、大好きな野球と地元が盛り上がることを望んでいます。

「野球日本代表には、絶対金メダルを取ってもらいたいですね。今は新型コロナウイルス感染症の影響でなかなか前を向くことができませんが、自分も野球に支えられたようにスポーツが元気づけてくれると思います」。



10年たった今でも大切にしているグローブとともに、社会人になっても大好きな野球を続ける
本人提供

関連インタビュー

岩手県 川崎杏樹さん

津波被害を受けた母校跡地にスタジアム、楯円球が世界と3.11つなく

宮城県 瀬川誠さん・虎くん親子



- ・ [組織委員会について](#)
- ・ [お問い合わせ](#)
- ・ [ウェブアクセシビリティについて](#)
- ・ [リンク](#)
- ・ [利用規約](#)
- ・ [個人情報保護方針](#)
- ・ [クッキーポリシー](#)
- ・ [サイトご利用にあたって](#)
- ・ [サイトマップ](#)
- ・ [報道関係者の方へ](#)